

執筆者紹介

朱 鋒（しゅ ほう）

北京大学国際関係学院教授、北京大学国際戦略研究センター（CISS）副センター長。1981年北京大学国際政治学部入学、1991年北京大学で博士号取得。東アジアにおける地域安全保障、北朝鮮の核開発、米国安全保障戦略、中米関係およびミサイル防衛など幅広く執筆している。中国の安全保障の第一人者であり、平和発展センターのシニアリサーチフェローである。複数の学術誌の編集委員でもあり、中国政府や民間機関への助言を行い、テレビ、ラジオおよび雑誌などで中国外交や安全保障政策に関するコメントをしている。近著として、『BMDと国際安全保障』（上海人民出版社、2001年）（中国語）、『国際関係理論と東アジア安全保障』（人民大学出版社、2007年）（中国語）および *China's Rise: From Theoretical and Practical Perspectives* (co-edited with Prof. Robert S. Ross, Cornell University Press, forthcoming)。

文 正仁（ムン・ジョンイン）

延世大学国際関係論教授。また、デューク大学アジア太平洋研究所非常勤教授、世界国際研究委員会の共同コーディネーター、米国社会科学研究評議会の地球安全保障協力プログラムの選考委員を務めている。2003年には日韓文化交流基金の招聘研究員として来日。延世大学で1977年に学士号（哲学）、メリーランド大学で1981年に修士号、1984年に博士号（ともに政治学）を取得。著書に *Arms Control on the Korean Peninsula* (Yonsei University Press, 1996)、*Economic Crisis and Structural Reforms in South Korea: Assessments and Implications* (Economic Strategic Institute, 2000)（共著）などがある。その他、主要な学術誌や専門書に百を超える論文を寄稿している。

アンドレイ・N・ランコフ

国民大学社会学准教授、オーストラリア国立大学アジア研究上級講師。専門は、北朝鮮の政治史・社会史、ソ連および中国の朝鮮半島政策、韓国の近代化。ソ連国立レニングラード大学で博士号（歴史学）を取得。1989年、レニングラード大学（後のサンクト・ペテルブルク大学）専任講師。その後、韓国の中央大学、烏山大学などで教鞭をとる。40本以上の論文と8冊の著作がある。代表作は、*1956: The Challenge to Kim Il Sung and the Failure of de-Stalinization in the DPRK* (Hawaii University Press, 2005)。朝鮮半島問題に関して、多くの国際会議に参加するとともに、ロシア語や英語で解説記事を書き、TV・ラジオなどからのインタビュー多数。

ヴィクター・D・チャ

ジョージタウン大学政治学部および同大学国際関係大学院のアジア研究プログラムディレクター。コロンビア大学学士、オックスフォード大学修士、コロンビア大学博士（政治学）。ハーバード大学やスタンフォード大学で客員研究員。2004年から2007年まで国家安全保障会議（NSC）アジア部長を務め、東アジア・太平洋地域を担当、六者会合では米国代表団次席として参加した。著書に、『米日韓－反目を超えた提携』（船橋洋一監訳／倉田秀也訳）（2000年度大平正芳記念賞受賞）、*Nuclear North Korea: A Debate on Engagement Strategies*（2004年）。*Foreign Affairs* を始めとする学術誌にも国際関係、東アジア問題に関する多数の論文を寄稿。また、議会の公聴会やTV・ラジオなどにおいてもアジア安全保障問題に関する独自の分析を提供している。現在、アジアにおけるスポーツ外交および北京オリンピックに関する本を執筆中。

チャールズ・L・ブリチャード

韓国経済研究所（KEI、ワシントンDC）所長。2003年9月から2006年2月までブルッキングス研究所客員フェロー。著書として、*Failed Diplomacy: The Tragic Story of How North Korea Got the Bomb*（2007年）がある。クリントン政権下で国家安全保障会議（NSC）に入り、アジア部長、朝鮮半島緊張緩和のための4カ国協議米国副代表を務め、オルブライト國務長官と金正日総書記の会談に随行した。2000年には、大統領特別補佐官（国家安全保障担当）およびア

ジア担当上級部長。また、2001年4月から2003年9月までブッシュ政権下で朝鮮半島エネルギー開発機構（KEDO）米国代表および米朝交渉特使。マーサー大学学士（政治学）、ハワイ大学修士（国際関係学）。防衛研究所第40期一般課程修了。

韓 庸燮（ハン・ヨンソプ）

韓国国防大学教授兼国家安全保障問題研究所所長。1991-92年、南北合同核管理委員会上級メンバー、1993年、韓国国防部長官特別補佐官を務めた。ソウル大学修士（政治学）、ハーバード大学修士（公共政策）、ランド研究所大学院博士（安全保障政策）。主な著作に“Analyzing the South Korea’s Defense Reform” (*Korean Journal of Defense Analysis*, Spring 2006), “The Six Party Talks and Security Cooperation in Northeast Asia,” in *North Korea’s Second Nuclear Crisis and Northeast Asian Security*, edited by Seung-Ho Joo and Tae-Hwan Kwak (Ashgate, 2007), *Peace and Arms Control on the Korean Peninsula* (Kyungnam University Press, 2005), *Sunshine in Korea* (RAND, 2002) など。

武貞 秀士（たけさだ ひでし）

1949年、神戸市生まれ。1972年、慶応大学卒業、1977年、慶応大学大学院博士課程を修了した。1975年に防衛研究所に入る。研究室長、主任研究官、図書館長を経て、2007年4月より統括研究官。朝鮮半島の安全保障問題、朝鮮半島の国際関係、南北関係などを専門とする。1978年より1年間、延世大学韓国語学堂に語学留学したあと、2年間、米国スタンフォード大学、ジョージワシントン大学の客員研究員を勤め、1991年より1年間、国際交流基金の日本研究プログラムの助成を受け、韓国の中央大学で客員教授として、「戦後日本の外交・防衛政策」の講義を実施した。著書に『恐るべき戦略家・金正日』（PHP 研究所、2001年）、『北朝鮮深層分析』（ベストセラーズ、1998年）、共著に『日本の外交政策決定要因』（PHP 研究所、1999年）、他がある。『フォーサイト』『VOICE』『時事トップコンフィデンシャル』などに寄稿している。